

質 疑 要 旨

馬場弘勝議員 No. 1

質 疑 要 旨	要 答 弁 者
<p>1 技術職員の不足について</p> <p>(1) 被災市町から要請された技術職の人員数に抑えられているのか。</p> <p>(2) 任期付職員の追加採用や全国からの応援職員の派遣依頼など、復旧・復興を担う技術職員の確保にどう取り組んでいくのか。</p> <p>(3) 官民で技術職員の採用競争が激化する中、採用試験の手法変更による積極採用や勤務環境の改善、待遇面での優遇、研修制度の充実など人材確保に向けた取り組みを強化する必要があると考えるがどうか。</p>	<p>知 事 総 務 部 長</p>
<p>2 能登復興応援基金の活用と持続的な拡大について</p> <p>(1) COMPLEXからの寄附金は、復興に向けた積極的な活動に活かすべきだが、どのような支援に活用するのか。</p> <p>(2) 支援を早く実施し、長く続けるのが最善と考えるが、基金による支援実施のスケジュール感と手法を聞く。</p> <p>(3) 基金により実施された支援の具体的な内容と成果を全国に「見える化」することで、復興応援の持続的な拡大を目指す取り組みとすべきと考えるが、所見を聞く。</p>	<p>知 事 復旧・復興推進部長</p>
<p>3 被災古民家の保存と活用について</p> <p>(1) 建物所有者にとっては、被災古民家を保存し活用していくという、解体以外の選択肢もあることについて、所見を聞く。</p> <p>(2) 被災古民家をビジネスとして如何に利活用するかがポイントであり、解体した後では間に合わないが、どのように周知・説明していくのか。</p> <p>(3) 公費解体の期限が迫る中でタイムオーバーとならないように、併用可能な他の様々な補助金制度に関する助言や判断する時間の猶予など、建物所有者をバックアップすべきではないか。</p>	<p>知 事 浅野副知事 復旧・復興推進部長</p>

この質疑要旨は、12月9日午後6時5分に取りまとめたものです。

質 疑 要 旨

馬場弘勝議員 No. 2

質 疑 要 旨	要 答 弁 者
<p>4 災害に係る連携協定の実効性の向上について</p> <p>(1) 数多くある連携協定を分野別に具体的に体系化し、時系列的に支援要請のためのタイムラインを作成すべきではないか。</p> <p>(2) 連携協定の締結先と再協議し、実施する場所やタイミングなど、より具体性のある連携内容とすべきではないか。</p> <p>(3) 受援力の向上のために、定期的な連携会議の開催や、個別業務ごとの支援要請訓練を実施すべきではないか。</p>	<p>知 事 危 機 管 理 監</p>
<p>5 県外の公営住宅避難者の帰還について</p> <p>(1) 県外の公営住宅避難者に対し、再度のアンケートや積極的な電話聞き取りなど、住まいの確保を含めた帰還に関する意向把握はしているのか。</p> <p>(2) 帰還の判断材料となる地域の復旧・復興状況と住まいの確保に関する情報を最大限に提供し続けることが極めて重要と考えるがどうか。</p> <p>(3) 広域被災者データベースについて、今後、南海トラフ地震などの広域災害が想定される中で、能登半島地震の経験が全国で活かされるようなモデルを構築してもらいたい、所見を聞く。</p>	<p>知 事 総 務 部 長 復旧・復興推進部長</p>
<p>6 サイバー空間の安全確保について</p> <p>(1) 県警と北陸先端科学技術大学院大学との間で結ばれた協定による具体の取組内容と目指す効果を聞く。</p> <p>(2) サイバー空間の安全確保のために、金融機関とどのような連携、取り組みを行っているのか。</p>	<p>警 察 本 部 長</p>

この質疑要旨は、12月9日午後6時5分に取りまとめたものです。